

**ナンプーラ宣言**  
**UNAC（全国農民連合）2014年度年次総会**  
**2014年4月19日～5月1日開催**

（日本語訳 ＊英語版をもとに原文[ポルトガル語]参照）

<http://www.unac.org.mz/index.php/7-blog/79-declaracao-da-assembleia-geral-ordinaria-da-unac-2014>

モザンビーク全国農民連合（UNAC）は、25年以上にもわたり、モザンビークの農民男女の社会的、経済的、文化的諸権利と食料主権を守るために闘ってきたモザンビークの小農運動であり、10万を超えるメンバーを代表する。UNACは、国のすべての州から派遣された小農運動の指導者、招待された男性、女性、若者ら100名の出席のもと、4月29日から5月1日までナンプーラ州ナンプーラ市近郊のキンタ・ナサ（Quinta Nasa）に結集し、年次総会を開催し、2014年度活動方針を決定した。

ナンプーラでの総会は、わが国が政治的軍事的な緊張の高まりの中、国民和解と平和の定着そして民主的プロセスの深化が危機に瀕する最中に開催された。この間の緊張の高まりは、数千もの農民男女——とりわけ紛争が実際に起きている地域で暮らす農民男女——に大きな被害を及ぼしている。これに加え、我々農民男女にとっては、全国的な緊急事態が生じている。それは、国家開発政策——特に農業部門に焦点を置いた政策の策定と優先課題設定——に関し農民が周辺化され排除されていること、農民の土地の権利が鉱山開発、水力発電、アグリビジネスの巨大プロジェクトやその他の民間投資・公共投資によって体系的に剥奪されていること、そして政府の一部とその他の人々による土地を使った利益誘導や私有化の企みの継続である。これに対して我々は立場を明確にし、抵抗と闘争の方針を強固にしなければならない。

ナンプーラ総会では、我々の運動とわが国の現状を踏まえ、重要な戦略的手段——とりわけ2013年度活動・決算報告および2014年度活動計画案・予算案——を分析し、これを承認した。また、次の点について注目し深い議論を行った。現在の政治・軍事状況と農民の生活および農業生産に及ぼす影響、プロサバンナ・プログラムとそれに対しナカラ回廊の農民コミュニティとその他の農民の運動が一体となって取り組む抵抗メカニズムのための戦略、モザンビーク各地で急増する土地収奪のプロセスとそれに伴う紛争、自然災害の状況、各地で計画されている巨大プロジェクトと開発がコミュニティに及ぼす悪影響、モザンビークにおける環境保全型農業とタネ、UNAC内のジェンダー・ポリシー、家族農業支援国家計画、そして国際家族農業年と小農家族にとってのその意義である。

プロサバンナ・プログラムの緊急停止を求める公開書簡は、UNACと国内の20を超える機関によって、モザンビークおよびブラジルの大統領と日本の首相に宛てて送られたが、未だに返答はない。ナンプーラ総会において、モザンビーク各地から参加した小農のリーダーたちや参加男女若者らは、プロサバンナに反対すること、そして全国規模の抵抗運動のロードマップとアジェンダを作成することを繰り返し確認した。

我々、参集した農民男女は、プロサバンナ対象郡の小農運動の指導部、個々の農民男女に対して行われている迫害、脅迫、買収そして情報操作に強く抗議し反対する。これらの行為は、プロサバンナ調整チーム、郡行政当局、そして政府高官に主導され、プロサバンナ関係者と国家の指導部によるものである。ナンプーラ総会では、今後UNACがこれらの行為に黙って耐えることがないこと、またこれらの行為の推進者や主導者がモザンビーク人であれ外国人であれ、彼らを法的に告発していくことが誓約された。

「グルエ郡やアルト・モロクエ郡では、農民男女が複数の企業から圧迫を受けて悲惨な暮らしと飢餓への道程を歩まされている。1975年にわが国は独立し、その後平和を取り戻した。しかし、今日、再び多くのコミュニティが企業そして政府の抑圧から免れられなくなっている。これら（プロサバンナ対象郡）のある郡長は、プロサバンナの悪口を言おうとする者は牢屋に入れると発言している。」

ナンプーラ総会では、家族農業支援国家計画の草案も提示され、議論された。この計画は、農業政策に対するUNACの提案であり、モザンビーク政府に提示するためUNACに参加する農民男女が作成したものである。この計画は、政府の農業部門開発戦略計画2011-2020

（PEDSA 2011-2020）の実施手法における空白を解決することを目指しており、小農の生産システムを中心に据えたマルチセクトラル（農業に限らない多様な部門を含む）なアプローチに基づいて作成されている。この計画は、気候変動に抵抗力がある在来のタネの生産、在来の知恵・文化そして農民男女の経験に価値を見出すことに基盤をおく公的な農業支援サービス、灌漑の潜在性の活用、生産力向上につながるインフラストラクチャーの整備と再整備、農業支援融資の促進を効果的に可能とする仕組みづくりと運用——といった、食料主権を確立しモザンビークの全ての人々に適切な食料と栄養を保障することにつながる、農民家族の主権に根ざした要請に応えるものとなる。

UNACのジェンダー・ポリシーについての議論を踏まえ、我々の運動は、ジェンダー平等に関わる課題を農業部門の公共政策および我々の運動そのものに位置付けることが、モザンビークにおける農業のインクルーシブで持続可能な開発にとって不可欠であると考えられる。

現在、わが国が直面している政治的社会的状況についても、2014年度総会で注意が払われ分析された。ソファラ州のマシャンガ郡、シババヴァ郡、マリングゲ郡、ニヤマタンダ郡、ドンド郡、テテ州のモアティゼ郡、マニカ州のマコサ郡、ナンプーラ州のラパレ郡、メクブリー郡、イニャンバネ州のホモイネ郡、フニャロウロ郡では、すべての農民男女の期待に反し、今年の前半期はほとんどまったく耕作できない状態に終わったため、農民たちは後半の耕作期に低地を活用することに望みをかけている。

我々は交戦する両者に速やかに敵対を終わらせ、紛争を解決する唯一の手段として武力を選ぶことを止めるよう求める。これらすべての軍事攻撃や衝突は、主権者である小農による農業の発展に寄与しないばかりか、モザンビーク人男女の社会福祉にまったく寄与することなく、これを終わらせることは緊急の課題である。同様に、我々は両紛争主体に対し、透明で民主的な対話の場——つまり、広範でインクルーシブな参加と効果が保証されるメカニズム——を早急に再建するよう要請する。

民衆の闘争においては誰も疲れを知らない。我々の犠牲によって我々は目的を達し、求める勝利を得る。我々、モザンビークの農民男女は、植民地解放闘争の困難な日々から今日までそうであったように、小農による農業の発展を求める闘いを断固として続けて行くことを約束する。手に鋤を持ち、大地をしっかりと踏みしめ、我々すべてがこの祖国を耕す子であると感じることのできる、我々が闘いそして解放を勝ち取ってきたものよりさらに活気あふれ良いモザンビークを夢見て！

団結する農民は常に勝利する！  
ナンプーラ 2014年5月1日  
全国農民連合（UNAC）



## ナンブーラ州市民社会プラットフォーム 公式声明【仮訳】

ナンブーラ州市民社会プラットフォーム（PPOSC-N）は、市民社会組織（CSO）のイニシアティブ調整メカニズムとして各セクターやテーマ別のネットワークを統合する形で、2009年に設立された。その目的は、官民両セクターのパートナーとのコミュニケーションを容易にし、本州における開発のイニシアティブを達成することである。

ナカラ回廊地域での農業開発を目指した ProSAVANA 事業の実施は、PPOSC-N の「天然資源・農業ネットワーク」および「ガバナンス・ネットワーク」に反響を巻き起こしてきた。最近の同事業にみられる実施ダイナミズム、そして州の農業セクター（行政）関係者による各種の声明といった一連の動きを踏まえ、PPOSC-N は以下について明確にし、ポジションを取る。なお、これらの声明とは、国営放送 TVM（2013年9月17日20時30分放送、2013年9月18日の早朝に再放送）の ProSAVANA 事業の実施戦略に関するインタビュー/討論（番組）において、農業省ナンブーラ州局長並びに ProSAVANA フォーカル・ポイントによってなされた、本州の市民社会の関与についてのものであり、同討論には UGC ナンブーラ支部のコーディネーターも参加した。

- a) 我々は、ProSAVANA 事業に（合意し）調印した国家と政府の長に宛てた「ProSAVANA の停止と再考のための公開書簡（Carta Aberta Para Deter e Reflectir o ProSAVANA）」が PPOSC-N のアジェンダの根幹部分を成していることについて再度確認した。同書簡は、ProSAVANA 事業の停止と再考、そして家族セクター農業支援へとアプローチの変更を訴えるものであり、我々は依然として同書簡へのモザンビーク政府からの回答を待っている状態にある。
- b) PPOSC-N、とりわけ公開書簡に署名をしている市民社会諸組織は、少なくとも現在まで証明されてきた限りにおいて、ProSAVANA 事業が農民男女の利益を擁護する方向で、家族農業を促進するプログラムであるとは認めない。むしろ、農民らの生活を悪化させるものであると、この間みてきた。
- c) PPOSC-N は、「全国農民同盟（União Nacional dos Camponeses : UNAC）」にモザンビークの農民男女を代表し代弁する正当性があることを認める。なぜなら、

UNAC は、農民たちの利益を守る全国でもっとも広範な組織であり、全州に支部が存在するからである。ナンブーラ州には、各郡に農民男女によるアソシエーションのフォーラムやユニオンがあるが、UNAC に加盟していてもいなくても、農民の利益を代表するという意味においてそれぞれの組織は正当性を擁している。UNAC は、モザンビークにおける農業の発展に関する政策、(国家) 戦略、行動に関する討論において、不可欠な組織である。

- d) 公開書簡に署名したナンブーラの市民社会諸組織は、農民の利益と権利を守るための闘いにおいて、UNAC と各郡のフォーラムやユニオンと共にある。この観点から、これら諸組織は、個別的あるいはグローバルな利権のためになされる工作の試みを告発し、そのような工作が農民たちに対して行われることがないよう、助言し、監督し、番人となる正義を有す。
- e) PPOSC-N による州レベルの農業セクターの代表(政府)との対話の開始は、家族セクター農業の強化に向けた我々の政府のポジションをよりよく理解するという必要に基づくものであった。しかし、現在まで、ProSAVANA 事業あるいはナンブーラ州農業局(DPA) と PPOSC-N の間において、ProSAVANA を議論するための「技術審議会(*Conselho Técnico*)」なるものは一つたりとも設置されていない。したがって、DPA / ProSAVANA と PPOSC-N の間では、何の調印された取り決めも存在しない。既に開催された会議の議事録が両者によってサインされただけである。これまで PPOSC-N は、農村と家族農業の発展のための監視に関わる側面や、(関係者らとの) 関係の在り方のルールを構築するために、これらの会議に参加してきた。そして、将来において議論すべきポイントについて合意しようとしたが、それは未だ起こっていない。
- f) PPOSC-N は、ProSAVANA 推進者らによって進められてきた、モザンビーク市民社会に対する分断、分裂化、弱体化の試みに表される各種の工作活動と脅迫について、遺憾の意を表明する。8月28日および29日にリシंगा市(ニアサ州)で開催された UNAC の北部地域会議(Conferência Regional Norte)には、ProSAVANA 推進者らも招待されたが、彼らは同会議以外の目的を推進しようとした。つまり彼らは、30日に、いくつかの市民社会組織との会議を(UNAC 北部地域会議と) パラレルに開き、そこでニアサ州における ProSAVANA 事業を議論するためのフォーカル・ポイントにこのグループがなることを合意するとの議事録にサインするよう、出席者らに求めた。しかしながら、先に行われた会議(UNAC 北部地域会議)では、UNAC のメンバーである農民男女は、何度も ProSAVANA 事業のアプローチに合意しないと表明し、公開書簡が求めるプロサバナ事業の緊急停止と再考について求めたのである。

- g) 前述ポイントと同様の観点において、PPOSC-N は、JICA（日本の国際協力）による、時に技術者として、時に外交官として、時に相談役として果たされる、不明瞭で不透明な役割を遺憾に思うとともに、議論の重要な局面において、個別の動きとして装われる一人のシニア相談役による ProSAVANA ナショナル・チームに対するリーダー的役割に対しても、遺憾の意を表明する。これらは我々の観察に基づくものである。
- h) PPOSC-N は現在でも、農村開発や家族農業に対する新しいアプローチに関する国のリーダーシップに焦点を当てた議論の最善の方策は**対話**であると信じている。しかしながら、このテーマに関する農民組織や市民社会組織の分断や工作の試みの継続は、農民男女の憲法に基づく諸権利を意味のあるものにしていくためには、別の種類の方策を検討しなければならない状態に我々を導きつつある。
- i) PPOSC-N は、モザンビーク農業、農村生活のすべての過程において、女性が果たしている重要な役割を認識する。そのため、農業政策や農村を対象としたプログラムにおいて、女性は特別に考慮されなければならない。

ナンプーラ市にて 2013年9月30日  
ナンプーラ州市民社会プラットフォーム 声明文

***Travessa da Rua nº1065 – Bairro dos Poetas***  
***Email: [pposc.nampula@gmail.com](mailto:pposc.nampula@gmail.com)***  
***Tel: + 258 26218541; + 258 826061426***  
***Fax: + 258 26218638***  
***Nampula***

1. 第10回 ProSAVANA 事業に関する意見交換会での議論の振り返り

- ・ NGO：「脅迫」の訴えに基づく確認
  - 当日3名の、3州の（団体の）農民代表の方が登壇して、その場ではっきりと、プロサバナに関する情報がないこと、プロサバナに関する情報公開を政府等に求めた時に、「プロサバナについて異義を申し立てた者は投獄するぞ」との脅しを受けているとの農村部の状況について、登壇して語られている。そこに大使館の方も JICA の方もいた。
  - 確認事項
    - ◇ 1. 外務省・JICA とも、そういった報告を現地の方から受けているのか？
    - ◇ 2. もし聞いているのであれば、どのようなご認識なのか？
- ・ 外務省：「現地からの公電にそのような報告はない」
- ・ JICA：
  - 「我々の方で把握している限り、そのような事実が確認されたということはない。」
  - 「そのような権限を持った人物はいない。」

2. JICA 資料にみる ProSAVANA 事業の実施体制

ProSAVANA 実施機関：

以下の3カ国機関（ABC、JICA、モ国農業省と州政府）の調整組織による。

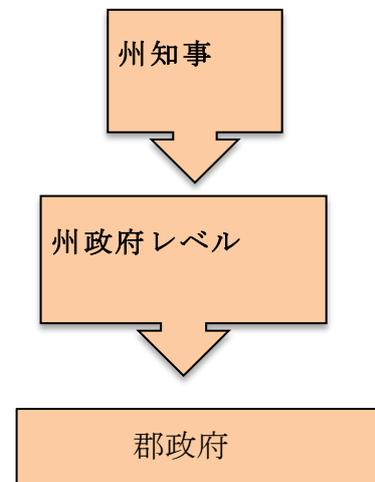
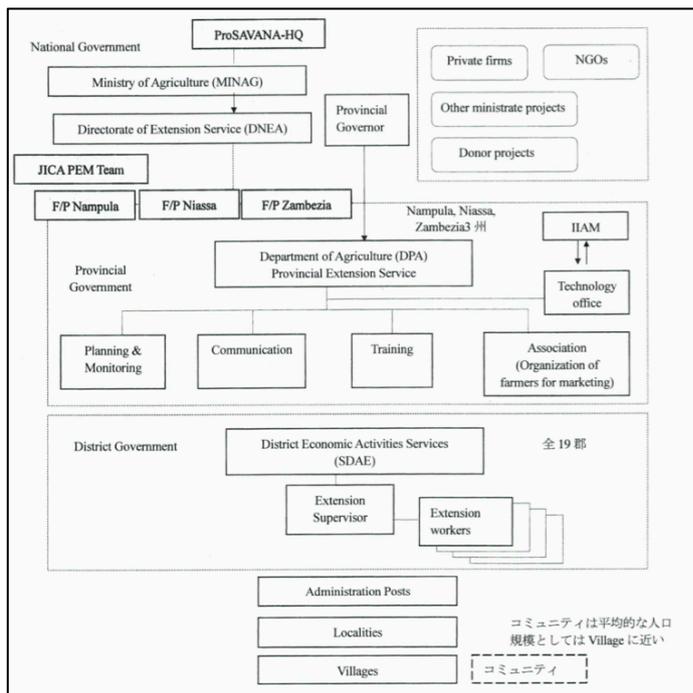
- ・ ProSAVANA-Joint Working Group (JWG)  
=>最高意思決定機関として3カ国内に設置（各国の関係省庁・実施機関の代表）
- ・ ProSAVANA-HQ (HQ)  
=>モ国農業省内に事務所が設置/ 日常の3カ国調整・本国との連絡  
=>三カ国から派遣された ProSAVANA コーディネーターによって構成
- ・ ProSAVANA-Joint Coordination Committee (JCC)  
=>ProSAVANA プログラム及びプロジェクトの方向性について決定

【JCC の構成】

「モ」国:	MINAG 大臣アドバイザー兼 ProSAVANA コーディネーター（議長）、同省国際局長、同省普及局長、同省農業振興局長、ナンブラ州知事、ニアサ州知事、ザンベジ州知事
日 本:	JICA モザンビーク事務所長、JICA 本部代表者、JICA ブラジル事務所代表者、ProSAVANA コーディネーター（マプト駐在）
「伯」国:	ABC 在「モ」国代表もしくは ABC 本部から指名を受けた代表者、ProSAVANA コーディネーター（マプト駐在）

ザンベジ州知事を含む

【事業実施メカニズム】



（「PEM プロジェクト業務進捗報告書 2014年6月」）

第二回 プロサバンナに関する三か国民衆会議 ザンベジア州小農代表  
冒頭スピーチの録音と動画による記録に基づく翻訳  
(字幕付き動画→<https://www.youtube.com/watch?v=9mqpHbLRg2w>)

録音

ザンベジア州では 2 つの郡がプロサバンナの対象となっている。我々の懸念は大きい。このプログラムが小農に何をもたらすのか分からない。我々は沢山の約束を聞いてきた。政府は、多くの約束をしてきた。



録画開始～19 秒

プロサバンナでアルトモロクウェにトラックが来る、お金もくれるという。本当な のか？

19 秒～30 秒

例えば、ザンベジア溪谷での開発プログラムでは、政府はトラクターが郡にくると約束した。しかし、トラクターが来てみたら、トラクターは小 農には無理だという。

30 秒～45 秒

君たちはトラクターの管理ができない。それは勉強していない、文盲だからだと言われる。これらのトラクターは、他の 管理ができる人のためにあるからと言われる。

45～51 秒

これが小農のための開発といえるのか？他の人たちの開発なんじゃないのか？

51 秒～1 分 6 秒

だから、小 農はナカラ回廊開発、プロサバンナを信じる事が出来ない。多くが嘘をつかれていると思っている。

1 分 6 秒～13 秒

小農たちは、プロサバンナについて知ろうと努力してきた。このプログラムによって何が起こるのかについて。

1 分 13 秒～1 9 秒

政府に説明を要求し、政府がくる。

1 分 19 秒～35 秒

政府はいう。「小農らよ、レグロ (チーフ) らよ、お前たちの身の回りに気を付けよ。プロサバンナに反対している人を見つけたら、牢屋に入 れるぞ」と。

1 分 35 秒～43 秒

「お前達はプロジェクトに反対しているということは、開発に反対しているということだ」

43 秒～1 分 5 4 秒

州知事と会う機会があった。そこで、去年の報告書を州の知事に提出した。

1 分 54 秒～

そして知事にいった。「我々はプロサバンナのせいで困っている (泣いている)。プロサバンナに来てほしくない」と。

2 分～2 分 7 秒

すると知事は、「なんと！そんなことは許されない。そんなことを言い続ける者は投獄するぞ」と。

2 分 7 秒～2 0 秒

だから、我々は嘆き、疑問に思う。これは本当は「強制的開発」なのではないか？我々の生活改善のため、とかなんとかいうが。